特集・挑戦する日本の経営者たち

宮城産業人クラブ

概　要

◇1983年（昭58）4月1日設立　会員数 42人
◇事務局所在地 ＝ 仙台市青葉区上杉1の17の18、第五銅谷ビル（日刊工業新聞社仙台総局内）
◇電話 ＝ 022・225・8734

会長インタビュー

企業間連携の触媒役に

工藤　治夫氏
（工藤電機会長）

宮城県内で自動車や半導体関連の大型製造業の集積が加速する中、県内のモノづくり企業にも取引拡大や新規参入のチャンスが広がっている。宮城産業人クラブでは、こうした大きな流れに乗り、ビジネスを拡大するための事業を展開。他地域の産業人クラブとの交流も推進する。工藤治夫会長（工藤電機会長）に今後の活動などについて聞いた。

―宮城県内産業界の景況感をどのように見ていますか。

「明暗がはっきりしている印象だ。県内企業の7―8割は下請け型だが、県内からの仕事を受注している分には曇り。一方で、下請けをしながらも、自動車や半導体、環境分野などで独自の戦略や技術を持ち、県外や海外に取引先を開拓している企業は2010年夏あたりから受注が増加しているようだ。リーマン・ショック後の立ち直りも早い」

「産業人クラブ会員に話を聞いても、同じような印象を持つ。ただ、クラブ会員には従来から県外にも視線を向けて仕事をしてきた企業が多く、そういった企業に多くのビジネスチャンスが広がっているのではないかと思う」

―県内では今年、1月に稼働したセントラル自動車（相模原市緑区）をはじめとした自動車関連、4月に稼働予定の東京エレクトロンを中心とした半導体関連など大型工場の本格操業が相次ぎます。

「宮城県には現在、全国的に見ても日が当たっており、注目されているように思う。村井嘉浩知事のリーダーシップのもと、自動車や高度電子関連の産業集積が進み、地場企業にとっても取引拡大や新規参入のチャンスとなっている」

「ただ、行政も地場企業の育成に力を入れているが、ハードルは高く、新規参入には時間がかかるかもしれない。進出した大手企業とすでに取引を始めている県内企業もいくつか出ているが、そういった企業は早くから県外との取引を意識して取り組みを進めてきたようだ」

―産業人クラブの活動には今後、どのようなことを期待しますか。

「全国組織という特徴を生かして、全国の産業人クラブ間の交流の促進を期待したい。宮城産業人クラブでは昨年11月に宮城県内の視察に訪れた大阪産業人クラブ会員と交流する機会を設けた。また、福島、いわき、山形の東北地区産業人クラブとの交流には以前から積極的に取り組んできた。今後はさらに、ビジネスに結びつくような交流活動を行い、地域間でお互いにないものを補えるような関係を構築したいと考えている。例えば、東北地方には自動車関連産業の成長が期待されているが、先進地の九州地区の企業には学ぶべきことが多いはずだ。企業同士の連携や産学連携の触媒役となるような、魅力ある組織づくりをしていきたい」

知事らと意見交換

豊国東北経産局長を招いた今月3日の講演会

宮城産業人クラブ（工藤治夫会長＝工藤電機会長）は毎年、研究施設や先端工場の見学会を実施しているほか、宮城県知事や県の幹部を招いての意見交換会、地元の東北大学の研究者らを招いての講演会を定期的に開いている。また福島、いわき、山形を含めた東北地方4産業人クラブでの合同工場見学会や合同ゴルフ大会などを通じ、地域間交流も活発に行っている。

今月3日には仙台市青葉区のホテルメトロポリタン仙台で、みやぎ産業振興機構、日刊工業新聞社との共催により「新春講演・交流会」を開いた。東北経済産業局の豊国浩治局長が「東北地域の現状と発展の方向性について」と題して講演。質疑応答を通じて豊国局長と会員が意見交換した。

同日は、東北地方の学生による新事業提案コンテスト「第6回キャンパスベンチャーグランプリ東北」（CVG東北）の表彰式も同会場で開かれ、その後には学生を交えての交流会を開催。クラブ会員や学生ら約70人が参加した。東北地方4産業人クラブではCVG東北を日刊工業新聞社と共催しており、次代を担う東北の若者の育成支援にも取り組んでいる。

山形産業人クラブ

概　要

◇1983年（昭58）5月24日設立　会員数 28人
◇事務局所在地 ＝ 山形市本町2の1の2、富国生命ビル（日刊工業新聞社山形支局内）
◇電話 ＝ 023・631・8932

会長インタビュー

相互交流し難局に対応

松村　英一氏
（エムテックスマツムラ会長）

豊かな自然に恵まれた山形県。産業面では基盤技術の集積地でもあり、山形産業人クラブの会員企業もモノづくり企業を中心に構成している。先が見えにくい環境の中、ネットワークの活用などがクローズアップされてもいる。松村英一会長（エムテックスマツムラ会長）に、クラブの現状の課題や活動の方向性などを聞いた。

―国内のモノづくり産業を取り巻く環境が大きな変革の時代に突入しています。どのように感じていますか。

「2008年秋のリーマン・ショック以降、山形県産業界も世界経済の大きな変革の中にある。世界の成長センターが欧米などの先進国から中国などの新興国に移りつつある。こうした外部環境の変化の中で、特に国内のモノづくり企業は今後どのように進んでいくのか。なかなか先を見通すことはできない時代に入った」

―個々の企業が対応する問題も複合化しています。

「確かにこれまでのように単独の企業では対応できない問題も多くなってきており、異業種間のより一層の連携が求められている。そこで、人と人がつながるネットワークの構築が一層大事になる。産業人クラブの会員相互の情報交換などの活動が活発化することで、新たなビジネスチャンスにつながるきっかけになればと考えている」

―山形県にはモノづくりを支える基盤技術が集積しています。課題は。

「山形県のモノづくりは江戸時代の打ち刃物、鋳物、織物から連綿と続き、戦後はミシン産業が中心だった。こうした産業を背景に、現在では鋳造、鍛造、切削、研削、表面処理、プレスなどの基盤技術で高い技術力を持つ個性的な企業が集積しているのが一つの特徴といえるのではないか。今後、山形県のモノづくり産業が生き残りを図るためには、製品や技術の改良を進めつつ、コスト的にも競争力を持った形で提供していく工夫などがより大きな課題としてクローズアップされている」

―先行きはなかなか見えにくいです。

「これまでよりも高度な技術への特化を進め生き残りを図ってきた企業にとって、経営環境は一段と厳しい面がある。企業単独での決断が難しい場面も増えるだろう。だからこそ異業種交流などの場を活用して、それぞれのネットワークの中で経営のヒントを見つけ出していくことが肝心ではないか」

―最後に山形産業人クラブの今後の活動について。

「山形産業人クラブにおいても、会員相互の交流をより密にする取り組みを推し進め、この難局に対応していきたい。ネットワークの輪を一段と広げて、山形から明日の経営に挑戦する産業人クラブを目指していく」

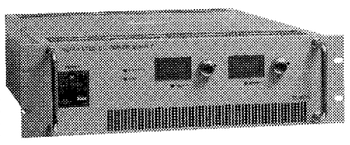
知事を囲み懇談会

昨年7月に開いた県知事を囲む産官懇談会では有機ELもテーマに上った

山形産業人クラブ（松村英一会長＝エムテックスマツムラ会長）は1983年の設立。東北地方の産業人クラブとしては「いわき」「福島」「宮城」に続いて4番目に発足した。県知事を囲む産官懇談会や産学官シンポジウムの開催、工場見学会、経営に役立つ各種講演会、新年会などの活動に取り組んでいる。

県知事を囲む懇談会は隔年開催。県知事はじめ県商工関連の幹部を招いて、産業政策の方向性などについて意見交換を行っている。2010年7月に山形市内で開いた県知事を囲む産官懇談会では「世界に広がる『ものづくり山形』の構築」をテーマに、今後の産業政策の方向性、有機エレクトロニクス（EL）産業の集積に向けた取り組みなど、産業の持続的な発展を目指す山形県の対応について知事らと意見を交わした。

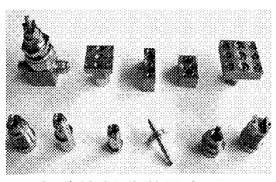
恒例の新年会では、海外事情に詳しい井上宗迪デジタルハリウッド大学教授を迎えて、独自の経済分析に基づく景気動向の講義を集中して受けている。また工場視察は東北地方の4産業人クラブ合同で実施。会員間の親交を深めるイベントとしては、春から秋にかけてゴルフコンペを開催しており、毎回熱戦を繰り広げている。

第2回「みやぎ優れMONO」認定製品
ハイパワースイッチング電源［SPシリーズ］
半導体製造装置、液晶イオンドーピング装置、粒子線医療装置などに使用される定電流定電圧直流電源は高精度で、信頼性の高い電源が要求されます。加速器科学分野で培った高度な技術開発により、高効率で高安定な電源となっております。

◇1KW type ◇2KW type
◇3.3K～10KW type ◇10K～30KW type
工藤電機株式會社
■本　社 〒982-0034 仙台市太白区西多賀三丁目1番5号 TEL022(245)2141㈹ FAX022(245)2485
■名取工場 〒981-1225 名取市飯野坂三丁目1番38号 TEL022(382)3155㈹ FAX022(382)3124
http://www.kudo-denki.co.jp/

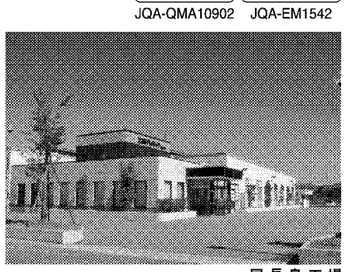
結ぶ 見まもる 創りだす
システムの開発から、設計・製造・工事・保守までお客さまにご満足いただけるICTソリューションを提供いたします。
Tsuken 東北電力企業グループ
通研電気工業株式会社
〒981-3206 仙台市泉区明通3-9（泉パークタウン工業流通団地内）
Tel.022-377-2800(代) Fax.022-377-9217 http://www.2ken.co.jp
●支社／青森・岩手・秋田・宮城・山形・福島・新潟

時代のニーズに即応した岩機の製品
ISO 9001 JQA-QMA11202　JAB QS Accreditation R009
アルミ・亜鉛・マグネシウム ダイカスト製品
鉄・ステンレス モルダロイ製品（MIM）
試作金型 粉末焼結積層造形金型システム
岩機ダイカスト工業株式会社
〒989-2204 宮城県亘理郡山元町鷲足字山崎51の2
Eメール info@iwakidc.co.jp
TEL (0223) 37-3322㈹ FAX (0223) 37-3720
ホームページ http://www.iwakidc.co.jp/

お客さまからのご要望にお応えいたします。
yes
わたしたちユアテックは、総合設備エンジニアリング企業として、お客さまが求めている心ゆたかな生活の実現に向けて、電気、空調・給排水、情報通信、土木・建築、リニューアル分野において安全で快適な環境づくりをお手伝いいたします。
総合設備エンジニアリング企業 Yurtec 株式会社 ユアテック
株式会社 ユアテック http://www.yurtec.co.jp/
本　社／仙台市宮城野区榴岡4丁目1-1 〒983-8622 TEL.022-296-2111
東京本部／東京都台東区東上野2-18-10 〒110-0015 TEL.03-5807-6200
支　社／青森・岩手・秋田・宮城・山形・福島・新潟・北海道・横浜・大阪
■ユアテックは「ユアテックスタジアム仙台」のネーミングライツスポンサーです。

半導体製造装置・自動車部品・繊維機械部品
一般産業用機械精密部品の製造

半導体製造装置部品
空気圧トルクアクチュエーター

株式会社 伊藤製作所
代表取締役社長 伊藤 明彦
本社・工場
〒990-2445 山形市南栄町一丁目5番16号
電話 023-642-0255
FAX 023-641-6996
QUALITY ASSURANCE JIC REGISTERED ORGANIZATION No.3214-ISO9001
JAB QMS Accreditation R002

エレクトロニクス・自動車分野を支える表面処理技術
確かな表面処理技術で環境に貢献
私達はナノレベルの表面処理技術開発により、先端技術開発と地球環境の保全を行ないます。
JQA-QMA10902 JQA-EM1542
事業部門
■電子部品めっき部門
■自動車部品めっき・化成処理部門
■塗装部門

尾長島工場
スズキハイテック株式会社
本社・工場／〒990-0051 山形市銅町2-2-30 TEL.023(631)4703
尾長島工場／〒999-0213 川西町大字尾長島740-12 TEL.0238(54)3615

GET good Future with CS

お客様とともに未来を築く
半世紀以上の歴史の中で培われた超精密微細加工技術に加え、ハード・ソフト双方の最先端技術を蓄積。国内事業所と海外事業所のシナジー効果を高め、「エンジニアリング」と「グローバリゼーション」をキーワードに品質と防災の徹底により、安全と安心を添えたMTEXブランドを世界に向けて発信し、未来を見据えたワールドワイドな事業展開を図ります。
エムテックスマツムラ株式会社
●本社・天童事業所
〒994-8501 山形県天童市北久野本1-7-43 TEL023-654-3211㈹ FAX023-654-9088
●尾花沢事業所
〒999-4231 山形県尾花沢市北町2-2-2 TEL0237-22-1151㈹ FAX0237-22-1150
〈関連会社〉㈱新庄エレメックス／エムソフト㈱
マイクロトモグラフィー㈱／MTEX(VIETNAM) CO.,LTD